

謡曲「花筐」

使者(ワキツレ)

是は越前の国味真野と申す所に御座候。男大迹邊の皇子に仕え申す者にて候。さても都より御使いあつて。武列天皇の御代を味真野の皇子に御譲りあり。お迎えの人々罷り下り。けさ疾く御上洛にて候。さる間此程御寵愛あつて召し使われ候。照日の前と申す御方。此程御殿にて御里に御座候が。俄かの御上洛につき。御玉章と朝毎に御手に馴れし。御花筐を参らせられ候を。某に持ちてまこれの御事にて候程に。唯今照日の御里へと急ぎ候。あら嬉やこれへ御出候よ。これにて申し候べし。

照日の前(シテ)

使者わが君は都より御迎い下り。御位に即かせ給い。今朝疾く御上りにて候。又これなる御文と御花筐とを。確かにまいらせよとの御事にて候。これこれ御覽候へ。

照日の前(シテ)

さては我が君御位に即かせ給い。都への御上りこそ返すがえすも御めでたう候へとよ。さりながら此年月の御なごみ。いつの世には忘るべき。あら御名残惜しや。されども思し召し忘れずして。御玉章を残し置かせらるる事の有難さよ。急ぎ見参らせ候はん。

照日の前

我が應神天皇の尊苗を継ぎながら。帝位を踐む身にあらざれども。天照太神の神孫なれば。毎日に伊勢を拝し奉りし。其神感の至りにや。君臣の運みに出されて。いざなわれ行く雲の上。めぐり逢ふべき月影を。秋のたみに残すなり。頼め唯袖ふれ馴れし月影の。しばし雲居るへだてありともと

地謡

書置き給ふ水茎の跡に残るぞ悲しき
地謡 君と住んでいたときでさえ、寂しい山里に一人残つて有明の、春もつれなく過ぎ、木間を吹く松風もいつの間にか、花の跡さえなつかしい。君のなつかしいお花籠。手紙を抱いて里に帰ってきた。

廷臣(ワキ)・興昇(ワキツレ)

君の恵みも高照らす紅葉の御幸早めん
廷臣 君は、應神天皇五代の御末男大迹の皇子と申ししが。当年御即位おさまりて継体天皇と申すなり

興昇

今宮造り あらたなり
廷臣・興昇 萬代の恵みも久し富草の 恵みも久し富草の 種も栄ゆく秋の空。露も時雨も時めきて四方に色そふ 初紅葉。松も千年の緑にて。常盤の秋にめぐりあう御幸の車早めん御幸の車早めん

照日の前(後シテ)

いかにあれなる旅人。都への道教えてたべ。「何物狂いとや。物狂いも思ふ心のあればこそ問へ。」など情けなく教へ給わぬぞや

使者(ワキツレ) 私は越前の国味真野という所に

おられる男大迹の皇子にお仕えするものです。都よりお使いがあり、武列天皇の御代を味真野の皇子に御譲位がありました。お迎えの人が下つてまいり、皇子は今朝早く都に上られました。このところ「寵愛になり召し使われていた照日の前と申すお方、ただ今はお暇を頂いて里においでですが、その方へ、急な上洛のためお手紙と、毎朝手に慣れた花かごを残して、それを私に持ってまいれと仰せですので、ただ今照日の前の里に急いでまいります。ああ、嬉しい事にここにおいでです。ここぞ申すことによさう。申し上げます。

照日の前

何事にて候ふぞ。
使者 我が君は都より迎えが来て、天皇になられ今朝早く上洛されました。また、この手紙と花籠を間違ひなく届けよとの仰せです。さあ御覽なさい。

照日の前

それでは我が君は天皇になられてのご上洛、誠にお目出度いこととぞございます。しかし、この年月のお姿が心に残り、いつの世に忘れる事が出来よう。ああ名残惜しいこと。それにしても私をお忘れにならず、手紙を残してくださいとはありがたいことです。いそいで拝見することにしましょう。

照日の前

自分は応神天皇の血統を継ぎながら、帝位に就く身ではなかったが、天照大神の子孫であるからと、毎日伊勢を拝み申した。それが神の感応を得たか、諸臣によつてえらばれ、誘われ行くのは雲の上。月が巡り合うように、貴女に巡り合うのを秋頃と信じてこれを残すのである。月がしばし曇に隠れても……、地謡 書置きなされたお筆の跡(貴方が去った後に)に残るのは寂しいこと。

地謡

君と住んでいたときでさえ、寂しい山里に一人残つて有明の、春もつれなく過ぎ、木間を吹く松風もいつの間にか、花の跡さえなつかしい。君のなつかしいお花籠。手紙を抱いて里に帰ってきた。

廷臣・興昇

君の恵みも高く照り映える。もみじの行幸、道を急ぐことによさう。
廷臣 君は、應神天皇の五代の孫、男大迹の皇子と言ったのですが、当年、即位され継体天皇と申します。

興昇

今、宮殿を造り、「威光著しい
廷臣・興昇 萬代までの恵みも久しく富み、稲の穂も豊かに実る秋の空、露も時雨も時を経て、四方に色を添える初紅葉。松も千年の緑の色で永延に映えている。秋に巡り合う。行幸の車を急がせよう。

照日の前

もうしここにいる旅人、都への道を教えて下さい。「何、私が物狂いだって！物狂いだって聞きたい事があるからこそ尋ねるのです。どうして教えてくださらないのですか、情けない



ワキツレ



さては我が君シテ



君の恵みも高照らす

ワキツレ

ワキツレ

ワキ